

課題1

氏名

大型弱視鏡にて近見眼位を測定したい場合、あなたならどうするか？

課題1

解答

氏名

大型弱視鏡にて近見眼位を測定したい場合、あなたならどうするか？

両眼のレンズホルダーに $-3.0D$ 付加する。

課題2

/

氏名

大型弱視鏡による交代性上斜位の右眼固視の場合を水平偏位はなかったものとして測定方法を図とともに示せ。

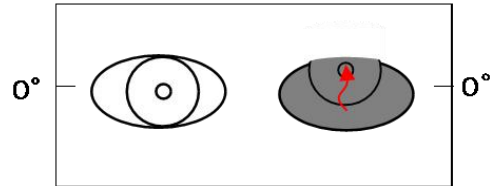


あくまでも一例なのでその病院の方法に従うこと！

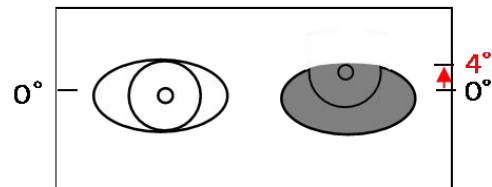
氏名

大型弱視鏡による交代性上斜位の右眼固視の場合を水平偏位はなかったものとして測定方法を図とともに示せ。

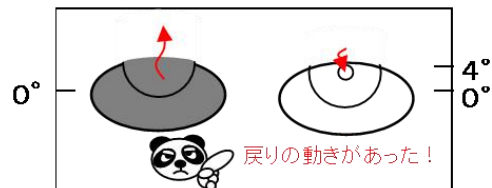
①アームを0°にし、被検者の固視が可能な最も小さい同時視用スライドを用いて右眼を点灯して中心を固視させ、左眼を消灯して上転の限界まで待つ



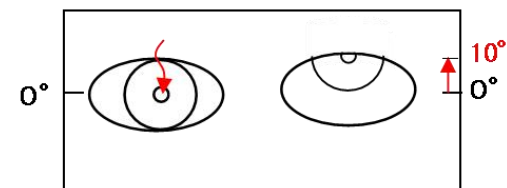
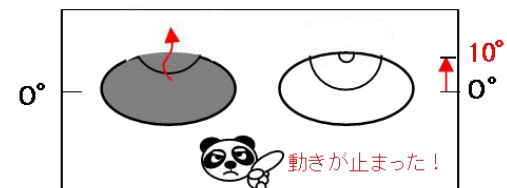
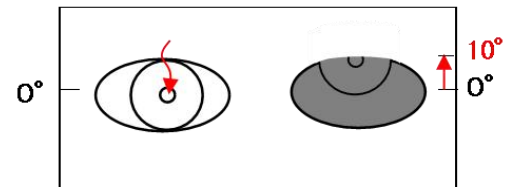
②上転の限界にきたら、左眼の上下ダイヤルで視標を目分量で上に上げる



③次に右眼を消灯すると同時に左眼を点灯し固視させ、眼の整復運動をみる



④整復運動がなくなるまで上下ダイヤルを上をあげることを繰り返す



常に非固視眼の動きを見て、止まった位置とする。だから、左右眼それぞれ測定する必要がある。他眼の動きは止まらない。

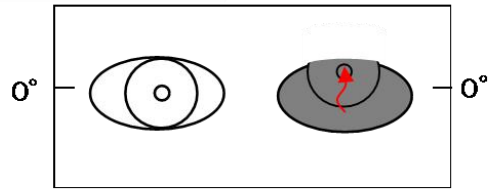
⑤右眼も同様に行う

記載例)

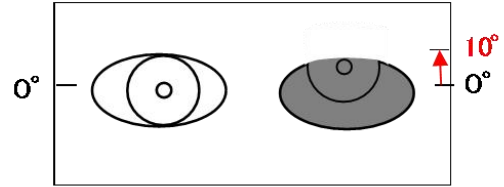
R-fix ±0° L/R 10°

L-fix ±0° R/L 14°

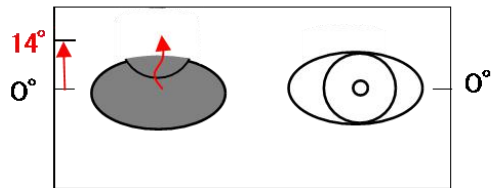
①アームを0°にし、被検者の固視が可能な最も小さい同時視用スライドを用いて右眼を点灯して中心を固視させ、左眼を消灯して上転の限界まで待つ



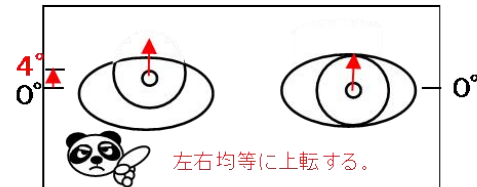
②上転の限界にきたら、左眼で視標を上へ上げ、解答例①の要領で整復運動がなくなるまで繰り返す



③次に左眼を点灯させ、右眼を消灯し上転の限界で視標を上へ上げ、同様に眼の整復運動がなくなるまで繰り返す



④両眼を点灯させ、右眼が(14° - 10° = 4°) 上斜傾向が大きいので右眼の視標を左眼との差だけ上げて、交互点滅にて左右眼が均等に上転することを確認する

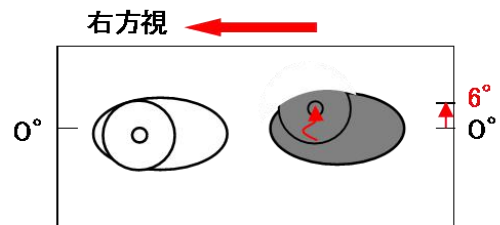


記載例)

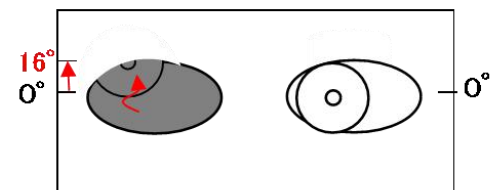
±0° R/L4° ↑↑

補足)

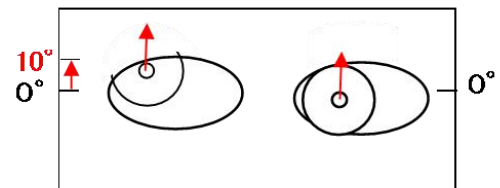
⑤右方視でも同様に行う



⑥両眼を点灯させ、右眼が(16° - 6° = 10°) 上斜傾向が大きいので右眼の視標を左眼との差だけ上げて、交互点滅にて左右眼が均等に上転することを確認する



⑦左方視でも同様に行う



記載例)

右方視 ±0° R/L10° ↑↑

左方視 ±0° L/R 3° ↑↑